



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

愛知県支部

No. 153

2023. 冬

日赤あいち

- ▶ 令和4年愛知県赤十字大会開催
- ▶ NHK 海外たすけあい ご協力ありがとうございました
- ▶ あいち防災フェスタ 2022 に出展
- ▶ 赤十字奉仕団ボランティアリレー 「小牧市赤十字奉仕団」



CLOSE UP

赤十字の
歴史と今を巡る
JRC
スタディー・ツアー

ボランティアとして活躍する奉仕団がリレー方式で登場



赤十字奉仕団

ボランティア リレー

小牧市赤十字奉仕団

こんな活動をしています

地域へ出向いて普及啓発

小牧市赤十字奉仕団は、赤十字の人道・博愛の精神のもと、地域社会をよりよくするため小牧市女性の会を母体として団員178名が活動しています。

健康生活支援講習や幼児安全法など日々の生活の安全を守るための講習会の実施や、赤十字精神の普及・啓発のためのキャンペーン活動、街頭での災害義援金などの呼びかけ活動を行っています。そのほか、近年では保育園で「ぼうさいまちがいさがし きけんはっけん！」の出前講座や小学校で「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう！」を使用した講話を行いました。



イチオシポイント

65周年を迎えました

小牧市赤十字奉仕団は、昭和32年の結成から令和4年で65周年を迎えました。8月には65周年を記念した「赤十字フェスティバル」を建て替えられたばかりの図書館のイベントスペースで開催し、地域の方に参加いただきながら、赤十字精神の普及・啓発に努めました。

当日は、普段は地域の公民館へ出向いて行っている救急法、幼児安全法、健康生活支援講習の中から、AEDの使い方や三角巾を使った傷の手当て、災害時に役立つホットタオルの作り方や風呂敷でリュックサックを作る方法などを、来場された方に体験していただきました。また、赤十字ビーズバジツくりや「ぼうさいまちがいさがし きけんはっけん！」などを子どもに体験してもらうこともできました。炊き出し体験（ハイゼックスを使った炊飯）については、今回は展示と説明のみとなりました。

今回の行事は今までの活動を見つめ直し、これからの活動について考える良い機会となりました。今後も研修等で団員のスキルアップを図り、地域に貢献できるように努めていきたいと思っています。



活動資金 ご協力ありがとうございます

日本赤十字社愛知県支部へ活動資金として
多額のご寄付をいただいた法人様

- ▶ 藤吉工業株式会社 様
- ▶ 一般財団法人坂文種報徳会 様
- ▶ 日本パッキング株式会社 様
- ▶ 株式会社山忠 様
- ▶ 株式会社畑中建築事務所 様

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

日赤あいち

〒461-8561 名古屋市東区白壁 1-50 TEL 052-971-1591 (代表)
発行元/日本赤十字社愛知県支部 発行日/令和5年1月1日

PRESENT

ハートラちゃん
バインダープレゼント

10
名様

日本赤十字社公式マスコットキャラクター
ハートラちゃんのバインダーです。

Mail : aichi-koho@aichi.jrc.or.jp
Fax : 052-971-1586

郵 送 : 〒461-8561 名古屋市東区白壁 1-50
日本赤十字社愛知県支部「日赤あいちプレゼント」係

①お名前 ②郵便番号・ご住所 ③電話番号
④年齢 ⑤「日赤あいち」の入手先 ⑥ご意見・ご感想など

締切/令和5年3月31日必着

Twitter

活動の詳細や
最新情報は
ウェブサイトか
SNSへ

日赤あいち

検索

https://www.jrc.or.jp/chapter/aichi/

Instagram

NISSEI.AICHI

Topics
トピックス

活動やイベントを報告します

あいち防災フェスタ2022に 出展しました

赤十字の災害への備えをPR

日本赤十字社愛知県支部は、令和4年11月13日(日)に大府市のあいち健康の森公園で開催された「あいち防災フェスタ2022」に出展しました。

愛知県赤十字災害救護奉仕団の協力のもと、災害時に活動する特殊車両として通信指令車とキッチンカーの展示や、災害時に医療救護等への用途に活用されるエアータントを展開しました。

エアータント内では、災害時に備え日赤愛知県支部が備蓄している救護資機材や救援物資の展示、子ども救護服の試着、愛知県赤十字青年奉仕団による防災教育教材「いえまですごろく」「ぼうさいまちがいさがし きけんはっけん!」の体験コーナーなど、お立ち寄りいただいた子どもたちにも赤十字の活動を知ってもらうことができました。



患者さんの命をつなぐ、私たちの献血

卒業献血キャンペーン

愛知県赤十字血液センターでは、この春に高校・大学・短大・専門学校を卒業される学生の皆さんを対象に「卒業献血キャンペーン」を実施します。県内9カ所の献血ルームまたは献血バスで献血の受付をされた方に、記念品をプレゼント(学生証をご提示ください)します。期間は令和5年3月31日(金)までです。

近年、10代、20代の方々の献血のご協力数は減少傾向にあり、将来にわたって輸血用血液を必要とする患者さんの命を守るためには、若い方々の献血へのご協力がが必要です。この機会にぜひ、お近くの献血会場へお越しください。

お待ちしております!



県内の献血ルームと
献血バスの最新情報は
こちらから



謹んで新春の
お慶びを申し上げます



平素から赤十字事業の推進に格別のご理解とご高配を賜り、心から感謝申し上げます。
日本赤十字社愛知県支部では、依然として続く新型コロナウイルス感染症の流行に対し、発生当初から赤十字病院では患者受け入れと治療に取り組み、血液事業においては献血協力者が減少する中でも安定的な確保に努めるなど、多岐にわたる赤十字事業を継続してまいりました。
また、昨年は、対面での支部主催講習の全面的な再開を始め、感染症拡大防止対策を徹底したうえで様々な活動を再開いたしました。十一月には、日本赤十字社名誉副総裁 寛仁親王妃信子殿下ご臨席のもと、愛知県赤十字大会を開催できました。
ウクライナ人道危機についても、直ちに救済金を募集し、国際的な赤十字のネットワークを通じてウクライナと周辺国での救援活動に活用されています。また、愛知県内の赤十字施設からも職員をウクライナへ派遣し、現地の仮設診療所開設支援など人的支援活動を行いました。
こうした活動は県民の皆様からのご理解とご支援により支えられております。
本年は従来の赤十字事業はもちろんのこと、地域の課題解決に資する赤十字事業の新たな展開に向けて取り組み、県民の皆様からのご期待に応えるべく尽力してまいりますので、今後ともご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



日本赤十字社
愛知県支部
支部長
大村秀章

令和4年愛知県赤十字大会を開催

寛仁親王妃信子殿下をお迎えし、
5年ぶりに開催

令和4年11月2日(水)に「令和4年愛知県赤十字大会」を日本赤十字社名誉副総裁 寛仁親王妃信子殿下ご臨席のもと愛知県芸術劇場大ホールで開催しました。

式典には、活動資金の協力やボランティア活動など赤十字活動を支援くださっている約550名にご参加いただき、有功章の御授与や感謝状の贈呈が行われました。

体験発表は、外国にルーツを持つ方で初めて救急法指導員資格を取得した3名のうちの1人 小川・ニア・クルニアワティさんが行いました。指導員資格取得までの道のりや指導員としてのこれまでの活動を振り返り、これから自らの経験を活かし、外国にルーツを持つ人も含めた地域の人たちに救急法を伝えていきたい、と語りました。



救急法を学んでいたから対応できました！

東浦町赤十字奉仕団の団員が心肺蘇生で救命

東浦町赤十字奉仕団が毎年研修として実施している救急法により、一人の男性の命を助けることができた出来事がありました。

令和4年10月下旬、東浦町赤十字奉仕団の団員で、フィリピン出身の千葉真理杏さんが東浦町内の飲食店で友人と待ち合わせをしていたところ、後方の席が突然騒がしくなりました。

何かあったのかと思い、真理杏さんが後ろを振り向くと、70代の男性が急に大きないびきをかいて後方に倒れそうになり、近くの方が支えている状況でした。男性の様子を見ると、だんだんと白目になり呼びかけをしても反応がありません。少しすると呼吸もとまってしまいました。お店の方が119番通報し、男性の様子を伝えたとこころ心臓マッサージをするように指示があり、大声でその場にいた人たちに伝えました。

真理杏さんは奉仕団の研修の際に、これまで何度も救急法短期講習のサポートをしていたため、「私がやります!」と申し出て、講習での手順を思い浮かべながらすぐに胸骨圧迫を開始しました。

胸骨圧迫を40回ほど必死で続けていると、男性は突然息を吸い込みました。顔色も一気に赤みを取り戻し、唇と目が動き出したのが確認できたとのこと。その後、救急車が到着し、男性は病院へ搬送されて一命を取り留めることができました。

「胸骨圧迫をする時、最初の3回くらいは怖くて力を入れることができなかったけれど、体が覚えているもので、その後は必死で胸骨圧迫を続けました。」と真理杏さんはその時のことを話してくれました。

東浦町赤十字奉仕団の西保委員長と新美副委員長はこう話します。「奉仕団内で毎年新規入団の方々に講習を実施しており、これまでにたくさんの方々の講習指導をしてきました。時には、自分たちの講習は果たして何かの役に立っているのだろうか、と悩む時もありました。今回の真理杏さんの行動により一人の命を助けることができたことは、自分たちのこれまでの活動が報われた想いです。」



当時の様子を語る千葉真理杏さん



左から新美副委員長、真理杏さん、西保委員長

第40回 NHK海外たすけあい

ご協力ありがとうございました

NHKと日本赤十字社は毎年12月に「NHK海外たすけあい」として、世界で苦しんでいる人々への支援活動を使途とする寄付金の募集を行っています。

今回もNHK名古屋放送局や愛知県支部で寄付を受け付けたり、県内各地で赤十字奉仕団による街頭募金活動を行い、多くの方にご協力いただきました。

皆様からお寄せいただいた寄付金は、海外の紛争や災害、飢饉、病気などにより苦しんでいる人々を支援する赤十字の活動に使われます。

03 愛知県赤十字血液センター
(瀬戸市)

1日目最後の見学先は愛知県赤十字血液センターです。血液センターでは、献血いただいた血液を検査して血液製剤を製造・保管し、輸血医療を必要とする人たちに届けています。

血液センター内の見学コースを回り、血液事業について学びました。



献血バスや献血運搬車、実際に検査や血液製剤の製造をしている様子を見学しました。

02 奥殿陣屋 (岡崎市)



続いて、奥殿藩の藩庁だった奥殿陣屋を見学しました。奥殿藩は現在の愛知県岡崎市を領地としており、最後の藩主は日本赤十字社の創立者の一人である大給恒です。

奥殿陣屋では歴代藩主にまつわる展示があり、大給恒のルーツに触れることができました。

01 日本赤十字社愛知県支部
(名古屋市)

スタディー・ツアーの始まりは日本赤十字社愛知県支部です。愛知県と三重県のJRC加盟校から集まったメンバーはお互いの初対面。まずは、自己紹介や自分の学校での青少年赤十字活動を発表して交流し、壁新聞の原稿の役割分担を行いました。

そして、青少年赤十字や赤十字の歴史についての講義を受けた後、災害時に活動する特殊車両や、救援物資が備蓄されている倉庫を見学しました。



愛知県支部の車庫では、救援物資や救護資機材の運搬に使うトラックや、運用開始に向けて準備を進めているキッチンカーを見学しました。

愛知県支部の地下倉庫では、災害時に配布する救援物資が保管されています。緊急セットや安眠セット等の見本を見て、災害への備えを学びました。



2日目

04 博物館明治村 (犬山市)

2日目に最初に訪れた博物館明治村では、日本赤十字社中央病院病棟を中心に見学しました。この建物は、皇室から建築資金と御料地の一部を下賜され、明治23年に東京都渋谷区広尾に建設されました。病院建て替えに伴い、昭和49年に病棟の一部が博物館明治村に移築され、日本赤十字社の病院事業の始まりや救護活動の歴史を今に伝えています。



入口には当時の病院を飾った社章「桐竹鳳凰」の木彫りの彫刻があります。



明治時代の様子を再現した病室や過去の救護資機材の展示などを見ることができ、連続と続く赤十字の歴史を間近に見て学びました。

05 日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院
日赤愛知災害管理センター棟 (名古屋市)

日赤愛知災害管理センター棟の備えている免震構造や自家発電、地下水をろ過して水を確保する地下水浄化設備など、災害時でもインフラを維持する仕組みや、最新のICT機器を備え災害時の情報収集や院内の指揮に活用される常設の対策本部を見学しました。

また、同病院は全国で5カ所ある国際医療救援拠点病院として、日ごろから人材育成や要員派遣を行っています。今回は国際救援部の職員から、日本赤十字社が取り組む国際救援について学びました。



2日間の締めくくりとして、振り返りを行いました。1日目に決めた役割分担に基づいて、どんな原稿を書こうと考えているかを話し、みんなで気づいたこと、考えたことを出し合い意見交換を行いました。



JRCメンバーが書いた原稿を載せた壁新聞は、来月2月頃にJRC加盟校に配布されるほか、愛知県支部WEBサイトでも公開予定です。

赤十字の
歴史と今を巡る

「JRCスタディー・ツアー」

青少年赤十字は令和4年に創設100周年を迎えました。日本赤十字社愛知県支部では、三重県支部とともに100周年記念行事として「JRCスタディー・ツアー」を11月19日・26日の2日間に分けて開催しました。

愛知県と三重県の小学校6年生の青少年赤十字メンバーが、愛知県内の赤十字ゆかりの場所と赤十字施設を巡って赤十字の歴史と今を学び、壁新聞づくりに取り組みました。

今回の日赤あいちでは、スタディー・ツアーの様子を通じて、愛知県内の赤十字施設や赤十字の歴史に触れられる場所を紹介します。